

## 妻木晩田遺跡 (国指定史跡)

妻木晩田遺跡は米子市淀江町と西伯郡大山町にまたがる大山北麓の丘陵上に発見され、発掘調査によって152haにおよぶ弥生時代の大規模な「ムラ」であったことが分かりました。

遺跡は弥生時代後半を中心とする400棟以上の竪穴住居跡及び500棟以上の掘立柱建物跡、30基以上の墳墓などが確認されています。また、丘陵の最西端に弥生時代後期前半の環濠も発見されました。

竪穴住居跡は、円形、多角形、隅丸方形、三角形など多様な平面形をしており、また、焼失住居跡が20棟ほど確認され分析により、カヤの上に土をかぶせた土屋根住居の構造であったと考えられています。掘立柱建物跡は平地式または高床式の倉庫と考えられるものや、9本柱で構成される総柱の建物で底を持つものなどがあります。

墳墓は弥生時代後期の山陰の特色的な四隅突出型墳丘墓であり、この時期の首長一族の墓と考えられています。

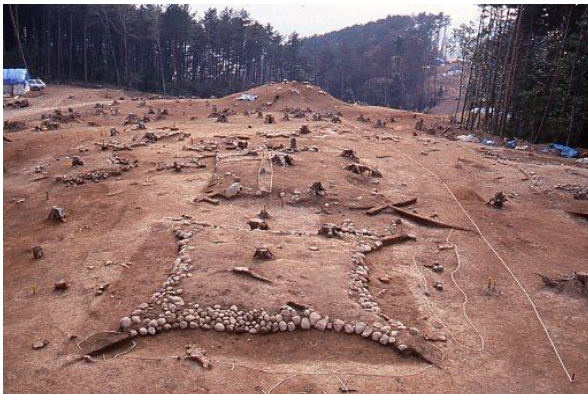
妻木晩田遺跡は、弥生時代の集落の規模の大きさと、集落の移り変わりがたどれる貴重な遺跡として、国史跡に指定され県立史跡公園として整備され公開されています。



洞ノ原地区の墳丘墓群



洞ノ原地区の環濠



洞ノ原2号墳丘墓



出土土器